

ヤコブの罪を映すラバン

創世記二九章21〜35節

ヤコブはラバンに言った。「あなたは何ということをしたのですか。私があなたのところで働いたのは、ラケルのためではありませんか。なぜ私をだましたのですか。」(25)

約束の七年が過ぎ、ついにヤコブがラケルと結ばれる時が来ました。ところが、何と、ラバンは妹ラケルとすり替えて姉レアをヤコブのところにいらせたのです。朝になってから気づいて絶句したヤコブですが、ラバンは涼しい顔をして言い放ちます。「私たちのところでは、妹を姉より先に嫁がせるようなことはしないのだ」(26)。さらに、ラケルのためにもう七年ここで働きなさいと言うのです。ヤコブよりもラバンのほうが一枚も二枚も上手でした。「押しのける者」という名を持つヤコブは、父と兄を騙して家督の権を奪い取りましたが、今や自分が騙される番となりました。ラバンは、ヤコブの持っている欠点を拡大して映す鏡のような存在でした。神は今も、私たちに自らの罪を気づかせ、神の子として整えるために、実に様々な人を遣わしておられることを覚えたいと思います。